乳房文化研究会 定例研究会
「アピアランスケアとしての乳房再建
― 現状とこれからの支援を考える」

主催：乳房文化研究会　共催：化粧文化研究者ネットワーク、一般社団法人乳房科学研究所
(「乳房文化研究会」は一般社団法人乳房科学研究所の登録商標です)

女性に最も多いがんである乳がんでは、乳房切除後の「乳房再建」がアピアランスケアの重要な選択肢の一つとされています。現在では保険適用も進み、以前に比べて身近な選択肢となりました。
しかし、日本における乳房再建の実施率は 2 割に満たず、その普及の遅れが指摘されています。その背景には、地域間の医療提供体制の格差や、社会における理解不足などの課題があります。
今回の研究会では、アピアランスケアとして乳房再建を選択する意義や、その現状と課題、求められる支援について、医療者・患者それぞれの立場からご講演いただきます。このテーマを通して、自分自身と向き合うことや他者との関わりについても、みなさまとともに議論を深めたいと思います。

本企画は、乳房文化研究会と化粧文化研究者ネットワークとの共催企画です。

■2026 年 11 月 29 日（日）14 時～17 時

13:30　開場＆オンライン開始
14:00～14:05　開会挨拶 河田光博（乳房文化研究会長）
開会挨拶 北山晴一（化粧文化研究者ネットワーク代表）
14:05～14:10　研究会の趣旨説明
菅森朝子（乳房文化研究会運営委員）
14:10～15:00　ご講演 「乳がん治療と乳房再建術のあいだで揺れる「わたしの乳房」」
渡邊知映先生（昭和医科大学 保健医療学部 教授）
15:00～15:10　休憩
15:10～16:00　ご講演 「乳房再建はキャンサーギフト！」
溝口綾子氏（一般社団法人 KSHS キチンと手術・ホンネで再建の会 代表）
16:00～16:55　質疑・討論
渡邊知映先生・溝口綾子氏・参加者
コーディネーター 菅森朝子（静岡大学）
16:55～17:00　閉会挨拶、諸連絡

■コーディネーター　菅森 朝子（すがもり あさこ）

静岡大学 情報学部 情報社会学科 講師／乳房文化研究会運営委員

渡邊 知映先生（わたなべ ちえ） プロフィール

昭和医科大学保健医療学部教授/乳腺外科兼担

＜略歴＞

2005 年 東京大学大学院医学系研究科 博士後期課程修了（保健学博士）
1996 年 日本赤十字社医療センター看護師
2005 年 がん研有明病院化学療法科データマネージャー
2007 年 東京慈恵会医科大学看護学科専任講師
2011 年 昭和大学医学部乳腺外科助教
2014 年 上智大学総合人間科学部看護学科准教授
2020 年より 昭和大学（現 昭和医科大学）保健医療学部看護学科 教授
昭和大学（現 昭和医科大学）医学部乳腺外科兼担

＜主な所属学会、団体等＞

日本がん看護学会理事
日本がん・生殖医療学会理事
日本乳癌学会評議員
東京都がん対策推進協議会 AYA がん対策専門委員
一般社団法人 A2J(Advanced Breast Cancer Alliance Japan)理事
若年乳がん患者コミュニティ Styles 世話人
第 5 回 AYA がんの医療と支援のあり方研究会学術集会会長

＜主なご著書など＞

私らしいがん治療のために [Making Sense of Cancer with Hannah Fry], 渡邊 知映, 監修, 丸善
AYA 世代のがん患者たち [Teenagers vs Cancer: A User’s Guide], 渡邊知映, 監修, 丸善
乳がん患者ケアパーフェクトブック 改訂第 2 版,分担執筆 Gakken
乳癌患者の妊娠・出産と生殖医療に関する診療ガイドライン, 日本がん・生殖医療学会, 分担執筆, 金原出版
がんサバイバーシップ : がんとともに生きる人びとへの看護ケア, 分担執筆, 医歯薬出版,

溝口　綾子氏（みぞぐち　あやこ）　プロフィール

一般社団法人 KSHS 代表理事

＜略歴＞

一般社団法人 KSHS 代表。2007 年、45 歳の時に乳がんが発覚。皮下全摘出手術の後、翌 2008 年に乳房再建手術を受ける。

2009 年に患者会「KSHS（キチンと手術・ホンネで再建の会）」を立ち上げ。セミナーやイベントなどを多数開催するほか、メディアでは乳がん当事者としての声を発信するなど多方面で活動している。